

平成 19 年度事業実績の概要

福祉専門職のキャリア形成に関するプロジェクト

福祉に関心をもち福祉系大学に入学した学生が、大学での専門関連講義を受け、さらには実習やボランティア活動といった体験を重ねて、かえって就職について悩むようになり、(福祉進路への関心を強くもちながらも)結果的に企業に行くという逆説的な状況があるように見受けられる。

そのような現状が本当にあるのか。あるとしてなぜ生じるのか、単に給料が安い、仕事がきついといった従来言われる要素だけが学生を戸惑わせる要因なのか。それ以外に福祉職に関して「業務が見えにくい」さらには、「キャリアパスのプロセス」が見えにくいといった要因があるのではないか。

これらの状況を明らかにし、福祉職のキャリアを見えやすいものにしていくことが本研究の目的である。

19年度は龍谷短大の阪口教授、西井講師、本学の空閑准教授、小山、博士課程後期院生の井上の五人をメンバーとし、計五回の研究会を行った。具体的には第一回十二月六日、第二回十二月二十日、第三回一月十日、第四回二月十三日、第五回三月十四日であり、各メンバーの教員としての経験などを論じたうえで、問題意識の共有を行い、参考文献の紹介、次年度に向けてのフレームの設定等を行った。

平成 20 年度事業の計画概要

1. 関連文献の収集・検討を行う。

具体的には、保正友子立正大学准教授の福祉職キャリアに関する文献の輪読。

その他、看護・教育等関連職のキャリア研究関連の文献収集。

2. 学内専門家の講義を受け、ディスカッションを行う。

具体的には、阿形健司准教授、浦坂純子准教授(予定)

3. 調査を実施する。

A. 何が職業選択段階の学生を迷わせ、また決定されるのかについて

卒業生・在校生、福祉卒・非福祉卒、福祉に進んだ者・福祉以外に進んだ者を対象に、インタビューで福祉を選んだ理由、選ばなかった理由、現在、福祉を続けている理由、福祉に移った理由・福祉から移った理由について問う。

B. 実際の福祉実践はどうなっているのかについて

各福祉専門職がどのような業務をし、どのようなキャリアアップしているのか「実態」について明らかにする。(インタビュー、アンケート両方が考えられる。)

< 21 年度 >

C. 問題解決に向けての検討

Bを受けて、Aの段階の人々への還元を図る。